話し言葉と書き言葉

話し言葉

音声によって伝えられる言葉を**話し言葉**という。話し言葉は目の前の相手に対して使われることが多く、その場の状況を共有していることを前提にした伝え方ができる。

- その場にあるものや様子を指示する語句が使える。
  「それ、持って帰ってね。」
- 状況に応じて言葉を省略できる。
  (バスを待っていて)「あ、(バスが)来たよ。」

また、話し方によって内容を強調したり、念押しや確認をしたりすることができる。

- 大事な部分を話し方によって強調できる。
  言葉を繰り返す。
  (集合時間を念押しして)「九時よ。九時。」
  大事な部分を大きな声で発音する。重要な部分をゆっくり話す。
  「ここに九時に来てください。」
- 念押しや確認の言葉を使って相手の反応や理解を確かめられる。
  「……ですね。」

このほか、くだけた表現や、方言が用いられることがあるのも話し言葉の特徴である。話し言葉では、同音異義語などの区別がつきづらいので、読み方を変えることもある。

(例)「シリツ(市立・私立)」→「イチリツ」・「ワタクシリツ」

書き言葉

文字によって伝えられる言葉を**書き言葉**という。その場限りで消えてしまう話し言葉と違い、書き言葉は記録として情報を残すことができる。

- 内容を書き直したり、読み返したりすることができる。

書き言葉は、誰が、どのような状況で読むかわからないので、正確に情報が伝わるように書く必要がある。

- 情報は具体的に書く。
  ×次の日曜日 → 6月27日(日)
- 表記や文末を整える。
  漢字・ひらがな・カタカナを使い分ける。
  常体(だ・である)、敬体(です・ます)のどちらかに統一する。

語句の中には、話し言葉ではよく使われても、書き言葉ではあまり用いられないものもあるので注意する。

(例) なので(話し言葉) → そのため・このため
でも(話し言葉) → だが・しかし

確認テスト

(1) 次の中から、話し言葉の特徴として適当でないものを選びなさい。

ア その場にあるものを指し示す語句を使うことができる。
イ 内容を、必要に応じて何度も読み返すことができる。
ウ 言葉を発する状況によっては、内容を省略できる。
エ 音声を調整して、重要な情報を強調することができる。

〔　　〕

(2) 次の中から、書き言葉の特徴として適当でないものを選びなさい。

ア 同じ発音の言葉も、漢字で書くことで区別することができる。
イ その場にいない人にも、文字で情報を伝えることができる。
ウ 誰が読んでも誤解が生じないように、共通語を使うことが多い。
エ その場で相手が内容を理解しているか確認することができる。

〔　　〕

(3) 次の話し言葉の内容について、気を付けて話すべきこととして適当でないものを選びなさい。

(調理実習の前日、持ち物を連絡(れんらく)していて)
「それではみなさん、明日は調理実習なのでエプロンと三角巾(きん)を忘れずに持ってきてください。」

ア 持ち物であるエプロンと三角巾は、大きな声やゆっくりした声で話すなど、強調する。
イ 相手がいつ内容を確認するかわからないので、明日と言わずに具体的な日付を伝えなければならない。
ウ 聞き手が内容を理解できているか確認するために、問いかけたり、念を押す言葉を使ったりするとよい。

〔　　〕